



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2022.3.9(No.3111)  
週報 No. 24

ロータリーを学び、  
ロータリーを広げよう

第2560地区ガバナー／高尾 茂典  
会 長／ 歸 山 肇  
会長エレクト／西山 徳芳 (クラブ奉仕A)  
副 会 長／若槻八十彦  
幹 事／五十嵐博宣  
S A A／船越良則  
会 計／渡 辺 良 一  
直 前 会 長／野崎喜一郎  
会長ノミニ／吉井直樹 (クラブ奉仕B)

例会日／毎週水曜日 12:30～  
例会場及び事務局／  
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内  
例会場／TEL 34-3311  
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095  
E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp  
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
(～はshiftを押しながら“へ”のキーを  
押してください)

■本日の出席会員数:57名中40名  
■先々週出席率:100.00% (2/16 WEB例会)

#### 【ゲスト】

・新潟県フードバンク連絡協議会  
事務局長 小林 淳様

#### 【ビジター】

・米山記念奨学生 李 恒 さん



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために  
2021～2022年度国際ロータリーのテーマ



## 会長挨拶

歸山 肇 会長



みなさんこんにちは。

本日のように晴れた日は、冬が終わり春の始まりを感じる良い時期になりましたが、皆様方にはコロナ感染も含め体調には十分注意していただきたいと思えます。

最初に、3月2日の例会時に報告しなければならなかったのですが、忘れていたことがありますので報告させていただきます。

理事会では報告してありましたが、4月17日の地区大会会場出席メンバーですが、出席人数の制限がありまして三条RCは12名(会員人数×20%)となっています。五十嵐幹事と相談しまして、在籍年数の長い方より12名に声掛けしまして出欠を問いました。返答をいただき、欠席人数分を在籍年数の少ない方から又は参加経験のない方を中心にお声がけをさせていただき、会場参加者として登録させていただきました。

会場出席の方以外の会員の方々はオンラインでの参加ということですが、まだ不明なことがありますので対応をいたしますので参加をお願いします。

さて本日の話ですが、先日、20年くらい前まで仕事上大変お世話になった方から電話があり、その話をしたいと思います。

その方は、東京に本社がある、プラント工事に関わる電材部品を扱う商社の社長さん(現在は会長職)で、プラント工事に使用するものが主なものです。

ここ数年間の話の最初は「おい歸山、元気か? みんな変わりはないか?」「健康診断は受けておけよ」「仕事はどうだい?」と決まっています。

社長さんは、声を聴く限りでは元気そうなので「(そちらは)いかがですか?」と聞きましたところ、今までとはチョットばかり違った感じの話がありました。

いろいろ話をした後でしたが、「実は食道がんの手術をしたんだが、今は何もないがいずれ再発するだろうな」と軽く話されました。話の内容はそれだけなのですが、私にとりまして30歳頃から約20年間、仕事上も含め、公私共に付き合いをした間柄なので、最後に話された言葉にはショックを受けました。

たしかに、社長の周りはガンで亡くなっている方が多いというのは聞いていますし、数人の方は私も顔もわかりますので、「覚悟はしている」言葉だと感じました。

残念なことに、今は時代の流れの中で仕事上の取引はなくなりましたが、当時のことがいろいろ思い出される結果になりました。私より11歳上ですので、いくら健康であっても年齢には勝てない。私自身「今を大切に」と考える機会になりました。

## 幹事報告

### 五十嵐博宣 幹事

◎高尾ガバナー事務所より

「ガバナー月信 3月号発行のお知らせ」

◎地区事務所より

「ガバナーノミニエジグネート決定のお知らせ」

2024-25年度ガバナー 南雲博文氏(長岡RC)

◎地区事務所より

「ロータリー財団地区補助金の活用に係る申請受付について」

締切日 4月25日(月)必着

◎地区事務所より

「不審なメールに関する注意喚起」

◎柏崎中央RCより

「創立20周年記念式典延期のお知らせ」

変更後の開催日 6月25日(土)

◎新潟北RCより

「例会場変更のお知らせ」

2022年4月より、新潟東映ホテルに変更

◎ロータリー囲碁同好会より

「第19回ロータリー全国囲碁大会のご案内」

日時 5月14日(土) 登録受付 9:30~

会場 日本棋院本院(東京・市ヶ谷)

## ニコニコBOX

歸山 肇会長

今の時期の晴天は気持ちがいいですね。

本日の卓話、小林様よろしく申し上げます。

渡辺良一さん

お陰様で弊社も20周年を迎えることが出来ました。お力添えをいただいた皆様に感謝でいっぱいです。

小林 淳様、卓話よろしく申し上げます。

斎藤弘文さん

孫が大学に合格しました。

長谷川徹さん

にいがたフードバンク連盟の設立記事を読みました。がんばって下さい。

吉井直樹さん

春めいた日差がこち良く感じました。春を迎える喜びを実感します。

本日、小林様の卓話を楽しみにしています。

衛藤泰男さん

先週、コロナワクチン3回目接種無事終了しました。コロナウイルスの攻撃から逃げなくちゃーと思ってます。

若槻八十彦さん

皆さんおひさしぶりです。

荻根澤隆雄さん

気温が10℃超えの陽気、半分嬉しいです。半分はロシア、ウクライナ戦に憂えております。

菊池 渉さん

ようやく春らしくなりました。

イヤなニュースばかりですが、一刻も早く“平和”になりますようにと願っています。

野崎喜一郎さん

大変暖かい良い天気となりました。本当の春はもうすぐです。

渡辺勝利さん

久しぶりの例会です。

明田川賢一さん

今日早退します。申し訳ありません。

五十嵐博宣さん、丸山行彦さん、小越憲泰さん、  
金子俊郎さん、近藤雄介さん、石橋育於さん、  
松永一義さん、関川 博さん、柳取崇之さん、  
中條克俊さん、小林吾郎さん、長谷川正実さん、  
石倉政雄さん、安達俊明さん、船越良則さん、  
松永隆夫さん、関 義実さん、早川滝徳さん、  
中村信一さん

小林 淳様を心より歓迎申し上げます。

本日は卓話ありがとうございます。お話楽しみにしております。

3月9日分 ¥ 31,000  
今年度累計 ¥ 772,000



米山記念奨学生の李さんへ奨学金の授与



## 「卓話」

食べる幸せをみんなで分かち合う

### 子どもの未来応援プロジェクト

～いのちとところを支えるフードバンク第三世代への進化～



新潟県フードバンク連絡協議会  
事務局長 小林 淳様

#### 設立経緯

2020年初旬新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、社会的孤独・孤立が深まると同時に経済的困難さを抱える子育て世帯が急激に増加しました。その中でも特に頼り先の少ないひとり親家庭等のこどもへの影響が深刻化することを懸念した県内10のフードバンク地域組織が連携し、2020年4月に当会を発足。ひとり親家庭等への直接支援による食品や衛生用品の緊急援助を県域で実施する『新型コロナ緊急対策子どもの未来応援プロジェクト』を立ち上げ、こどものいのちと育ちを支えるとともに親子のメンタルヘルス支援の取り組みをスタートしました。

#### フードバンク第三世代

フードバンクが担う社会的役割は時代とともに変化してきました。食料の提供による生活困窮者支援を標榜したフードバンク第一世代。加えて、食品ロス削減やSDGsを標榜したフードバンク第二世代。そして現在、社会的ニーズに応じて被支援者への直接的な食支援を通じ、多様な悩みに気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守ることを図るゲートキーパーとして機能するとともに、行政の施策や企業の社会貢献活動、地域コミュニティやNPO等の市民活動など、多様な組織や活動の協働を促進する中間支援組織として機能するフードバンク第三世代へと進化してきました。

#### 当事者の声

当会に届くSOSには、コロナ禍を契機とした急激な社会情勢の変化により、既存の公的制度や福祉サービスだけでは生活が立ち行かなくなったと訴える方が少なくなく、コロナ以降、メンタルヘルスが悪化したとの声も多く寄せられました。

また、生活困窮にかかわる公的窓口や専門機関に相談した結果、有効な支援が何も受けられず、加えて本人の失敗や見通しの甘さを指摘されたり恥辱的な経験について矢継ぎ早に質問されたりする窓口対応の冷たさにより、自尊心についた傷は更に深まり、助けを求めることへのためらいや不信感、あきらめや絶望感に苛まれ、藁にもすがらる思いでフードバンクに連絡したという方も多くいます。

## 親の心情・子の心情

食品を戸別配達した際、「こどもは一日二食、私は一食。こどもにおかわりもさせてあげられないことが辛い」、「楽しみにしていた部活や進学をあきらめてもらった」、「大学を中退させ就職してもらった」など、我が子の希望や未来を奪った自責の念から懊悩する母親達の姿を目の当たりにしました。

また、こどもからも「母がダブルワークしていても大変な経済苦で、家賃や学費など毎月お金の遣り繰りに悩んでいる姿を前にして、友だちと遊びに行きたい、部活をしたい、進学したいとはとても言い出せず、自分であきらめるようにしている」との話も聞きました。

頼り先もなく経済的に困窮するひとり親家庭等のこどもは、幼い時から「自己選別」を行い、他の子と同じような学用品や服飾品、部活や塾、外食や旅行など、親を困らせる様々な願いを諦めることで、自己実現に向かう気持ちを押し殺し家族を守っている、との事でした。

## 子どもの貧困とフードバンク

フードバンクは全国的にも、直接個人への継続的な食料提供は行わず、行政や社協、パーソナルサポートセンターや母子連、福祉施設やこども食堂など支援団体や福祉施設に提供するまでが活動範囲でしたが、コロナ下で社会的ニーズが急変し、直接個人への食料提供に踏み切るフードバンクが多くなってきました。

その結果、既存のセーフティネットから抜け落ちた人をキャッチする重層的なセーフティネットの一端を担うとともに、ひとり親家庭等へのこども宅食支援を通して直接的に「子どもの貧困」問題に関わるフードバンクが増加し、学用品や日用品、学習支援や就労支援、居場所づくりなど多様な活動の拡充が図られています。

## コロナ禍のメンタルヘルス支援

子どもの未来応援プロジェクトに取り組み始めて約2年。この間県域で当会の食支援に直接的・間接

的につながったひとり親家庭生活困窮世帯は5,000世帯を超えました。

「月間の自殺者数が2020年7月以降、12カ月続けて前年の同じ月を上回った」、「こども・若者や働く女性の自殺が増えている」などの報道を裏付けるかのように、当会の現場においても、被支援者のうつや自傷・自殺といった事例が多くなり、複合的な問題が深刻化していることを肌身で感じています。

新潟県の2021年の自殺者数は前年から19人増え467人となり、自殺死亡率は21.2人で全国ワースト3位と2020年対比7位から悪化しました。未成年者の自殺者も前年比で8人増え17人となり、人生が始まったばかりの未成年者の自殺者数、自殺死亡率が増加しているという状況は、多くの若者がその後の人生における自殺の萌芽を未成年世代から持っている事を示唆しており深刻な事態であるといえます。

メンタルヘルスの専門家ではないフードバンクボランティアができることは食支援を通じた「味方になりきるコミュニケーション」による寄り添いや励ましと考えて、学び実践しています。

気分が減入って悲観的な時、不安や悲しみや辛さといった気持ちを共感的に聴いて、それらを受け止めてくれる人がいる安心感。信頼関係の中で専門家にもスタッフが共につながってもらえる心強さ。その様な支援を心掛けながら親子の事実に関わり添い、こどもの未来を応援する地域資源として、今後ともフードバンク活動を継続・増進していきたいと思えます。

## 当活動への志金振込先

新潟県労働金庫(2965) 三条支店(345)

普通 5728693

名義 ニイガタケンフードバンクレンラクキョウギカイ

## お問い合わせ

事務局：〒955-0861 新潟県三条市北新保1-20-18

Tel&Fax 0256-34-8960

次週例会 3月23日

クラブ休会

次々週例会 3月30日

「PETS報告」

西山徳芳 会長エレクト

